

## 別記様式

## 議 事 録

会議の名称	第5回 岩倉市公立保育園適正配置方針に係る懇話会
開催日時	平成30年6月27日(水) 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第2委員会室
出席者	小松尚委員長、鎌倉博副委員長、町田竜介委員、廣中大雄委員、中島正資委員、 今井希恵委員、岸野奈津美委員、寺澤あや委員、渡邊亜希委員、社本真夕美委員、村瀬葉子委員、中島光恵委員 説明者：副市長、教育こども未来部長、子育て支援課長、児童グループ長及び係 オブザーバー：都市整備課長、営繕グループ長及び係 コンサルタント：地域問題研究所
会議の議題	(1) 公立保育園と認定こども園の保護者を対象にした懇談会実施の報告 (2) 適正配置方針の考え方(案)の修正・加筆版の検討
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他( )
会議に提出された資料の名称	資料 ・公立保育園・認定こども園の保護者等を対象にした懇談会ふりかえりシートまとめとテーマ別グループトークまとめ ・岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	12人
その他の事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
1. 開会	
事務局	・第5回岩倉市公立保育園適正配置に係る懇話会を開催させていただきます。
委員長	・適正配置方針の議論を深め、大詰めに迎えています。皆様の建設的なご意見を賜りたいと思います。よろしくお願ひします。
2. 議題	
(1) 公立保育園と認定こども園の保護者を対象にした懇談会実施の報告	

事務局より、資料「公立保育園・認定こども園の保護者等を対象にした懇談会ふりかえりシートまとめとテーマ別グループトークまとめ」により、公立保育園と認定こども園の保護者を対象にした懇談会を実施したことを報告

<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会に参加させていただき、発言もさせていただきました。和やかな雰囲気だったのは良かったと思います。</li> <li>・こういった話し合いの場を持つということは良いことだと思いますが、懇談会が統廃合の是非を問う場ではないとされており、適正配置方針に関する説明が全くなかったことは驚きでした。</li> <li>・現在の認定こども園などについての意見は出されたと思いますが、「新しい園ができるとしたら期待することは」についての意見で、適正配置方針の説明がされていた場合はもっと違った意見が出たのではないかと思います。</li> <li>・保護者から、配布された資料の中の適正配置方針の考え方（案）を自宅に帰ってから読んで、内容に驚いたといった声を聞きました。</li> <li>・懇談会で保護者の声を100パーセント聞いたとするのは、違うのではないのでしょうか。</li> <li>・説明の場を別に設けていただきたいと思います。</li> </ul>
<p>副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会は、話し易い雰囲気だったといった生の声を聞くことができました。</li> <li>・(資料「ワークショップ」) カラーのカードを貼った資料については、懇談会に参加された皆さんがカードにテーマごと自由に意見を書き、ホワイトボードに貼りつけたものです。この資料の中には、当日の皆さんの想いが記されているということをお伝えします。</li> <li>・懇談会では、小規模で手厚くやっていただいている良さを語られている方々もいました。その一方で、規模の大きなところでも問題もありつつ、こういった良さがあるといったことを語られている方々もいました。市民の中にもいろいろな意見があることから、今後、そのことを踏まえて検討していく必要があると思います。</li> </ul>
<p>議題（2）適正配置方針の考え方（案）の修正・加筆版の検討</p>	
<p>事務局より、資料「岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方（案）」に基づき、「1 施設状況や園児数等からみた特徴と課題」から「4 保育サービス必要量（試算値）と実際の利用数との格差」までを説明</p>	
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の案では公私連携型保育所の説明がありましたが、今回は見当たりません。削除したのでしょうか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料：10 ページ) 「7 今後の課題」のところに載せてあります。今後、適正配置方針の案と具体的手法についてお示していくこととなりますが、設置、運営について、公立でやっていくのか、民間の力</li> </ul>

	<p>をお借りしてやっていくのかといったところについては、その時の保育需要や市の財政に依るところが大きいといえます。このことから、公私連携型保育所制度は方策の一つとして、懇話会で議論されてきた課題も含め、今後の課題とさせていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料：3、4ページ) 修正点としては、基本的な考え方の4と5で、公私連携型や名称をこども園に統一することなどで、まずは、公立保育園の適正な配置を議論するという意味で、記述を改めさせていただきました。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料：1ページ) 「1 施設状況や園児数等からみた特徴と課題」のところで、これから40年間で公共施設を維持した場合122億円が足りなくなるとしています。一般的に他市でも、人口が減る事によりニーズが減るため、規模を縮小するという考え方があります。岩倉市でいえば、市内公共施設の延べ床面積で13パーセント縮減しなければいけないとしています。</li> <li>・(資料：4ページ) 小学校区別の10年後における保育サービスの必要量に関する表がありますが、人口が減ること、すなわち子どもの数が減ることで、10年間で保育園の需要は10パーセント減となっています。この数字は押さえておくべき大事な数字です。</li> </ul>
地問研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足ですが、0歳児から5歳児の子ども数は10年間で20パーセント近く減少します。一方で保育需要が高まることなどを勘案してこの数になっています。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要レベルでは10パーセントですが、子どもの数ではもっと減ると予測されているわけですね。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料：2ページ⑤) 2ページに「通園する保育園のある小学校区と入学予定の小学校区の一致にある程度の配慮は求められるものの、最重要視するほどではない」と記されていますが、3ページの基本的な考え方2では「小学校区を利用圏域と考え、そのエリアごとにバランスよく保育園等の施設配置を進める」としています。矛盾しているのではないのでしょうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の選定理由として、自宅から近いが69パーセントと最も多く、同じ小学校区は23パーセントとなっています。同じ小学校区が1番の選定理由とはなっていないものの、ニーズや声を拾っていくという意味において、圏域をエリア分けする必要があり、そのエリアが小学校区ということになります。小学校区を利用圏域と考えて、バランスよく施設配置を進めていくものとします。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料：2ページ⑤) 私は、事前に「最重要視するほどではない」ということは書かないほうがよいのではないかと具申ししていました。</li> </ul>

	<p>本来であれば、自宅に近いところ、通勤に便利なところに預けたいが、空きがないために別のところに預けざるを得なかったため、アンケートではそのように答えざるを得なかったのだと思います。現実と本音にズレがあるので、このような書き方はしないほうがよかったですと思います。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料：3 ページ) 基本的な考え方4で、公営の良さと民営の良さのベストミックスとありますが、公営の良さとして、特別な支援を要する子どもへの支援、子育て困難家庭への支援などがあり、それを踏まえた上での民間の良さはどういったところでしょうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料「ワークショップ」：テーマ4) 懇談会では公営、民間それぞれの良さを挙げていただきました。皆さんから信頼いただいている部分は公立保育園の役割であり、期待されている部分だと思います。民間保育園はそれぞれ違った特色があります。お子様の発達の度合いや保護者の方の考え方、暮らしぶりに合わせて選択の幅があることが、ベストミックスの良いところだと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に何を残し、何を削ってより良いものをつくっていくのかが、ここには示されていません。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残していくべき点というところでは、公立保育園の役割を堅持していくということを基本的な考え方4に記載しました。</li> </ul>
<p><b>議題(2)の続き</b> 事務局より、適正配置方針の考え方(案)の修正・加筆版の検討について、「5 適正配置・適正規模の方針(案)」から最後までを説明</p>	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統廃合することで小規模の園が選択肢として無くなってしまいが、選択肢があるほうがよいとする保護者のニーズをどのようにお考えですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩倉市は少人数でやってきたという特徴がありますが、他自治体との比較として、1園あたりの平均人数については、近隣自治体の中でも多い方から春日井市で127人、一宮市で116人、犬山市で82人となっています。そんな中、岩倉市は50人台ですが、適正規模方針としては、70人から130人としていますので、70人程度であれば小規模の良さは堅持できると考えております。将来の少子化を勘案し、70人程度が適正であると判断させていただきました。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果でも北部は若干少ないとの回答があったものの、あとは適正との回答がほとんどだったと記憶しています。アンケートの結果があっても70人を適正とされるのは、他市との比較からでしょうか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、岩倉市では中部保育園が 90 人ほどで一番人数の多い園になります。アンケートの回答でも中部保育園の園児数を適正と回答した方は 80.8 パーセント、東部保育園では 80.6 パーセントとなっています。北部、西部についても過去、70 人くらいの時もありましたので、70 人くらいでも充分小規模だと思います。他市と比較して判断したのではなく、岩倉市として、人口規模を考えての判断です。他市町では大規模の保育園もありますが、多すぎてもいけないということで、130 人程度までにすべきと判断しました。</li> <li>・(資料：5 ページ) 適正規模の考え方の根拠としましては、歳児別のクラス割で最も少ない場合の 68 人と最も多い場合の 126 人を想定して、70 人～130 人としています。</li> </ul>
地問研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校については文科省が適正規模として、基準を出していますが、保育園についてはそういった基準はありません。しかしながら、一般的には子どもの育ちなどの面から一定の規模は必要と言われています。幼児保育もそれに準ずる考え方から、案を検討させていただきました。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模、大規模の選択肢として、70 人規模のところや 130 人規模のところがあるということでしょうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全てを 100 人の定員で揃えるということではできません。70 人くらいの定員のところや 120 人くらいの定員のところができると思いますので、送迎も考えて、そういった規模の違うところが選択肢になるかと思います。</li> </ul>
地問研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校については地域性などもあることから、クラスの減少が即、統廃合につながるというものではありません。しかしながら、建て替えの時期がきたものについては、基準に照らして先行的に見ていくということはありません。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(資料：5 ページ) 保育士の配置基準について、表にある配置基準は 130 人規模の時で、70 人規模の時はどうな配置基準となるのでしょうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国は、3 歳児について、現在は 20 人に 1 人ですが、将来的には 15 人に 1 人の保育士を配置するとしています。70 人規模では、4 歳、5 歳は将来の少子化を勘案し、3 歳がスライドすると想定して 15 人としています。130 人規模のクラス割では、3 歳が 15 人の 2 クラスで 30 人、4 歳はスライドすることで 2 クラス、5 歳は基準をベースに従来の 30 人のままで 1 クラスとなります。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の基準よりは少なくするという事は、高負担になるのでしょうか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩倉の手厚い保育という特色の表れだと思えます。岩倉の良さを出すという意味でも、このような配置でやらせていただこうと考えております。</li> <li>・保育料についても、岩倉は国基準よりも下げています。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一連の大きな方向転換で、保護者への情報開示ということについてはどのようにお考えですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の皆様には、第5回の会議のご案内はメール等でご案内させていただきました。また、今回の資料は開示資料ということで、ホームページ等に公開させていただき、保育園等で見ることができるようさせていただきます。</li> <li>・保護者の皆様からご意見をうかがうことにつきましても、考えさせていただきます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のことは保護者にとって大きな事なので、懇話会以外でも保護者の同意が必要だと考えます。保護者の意見を聞く場を設けていただきたいと思えます。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートのグラフ集を保育園に置いて、ご覧いただけるよう準備しております。また、今回の資料も各園に置き、持ち帰っていただけるものも準備したいと考えております。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭にこの冊子だけでも配布できないでしょうか。</li> <li>・理解を得るためには説明会も必要だと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を置くだけではなく、意見を拾っていただければと思います。</li> <li>・資料を置いた場所に意見を書いて、置いておけるようにしてはどうでしょうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各戸への配布は費用の問題が発生しますので、各園に資料を置き、それに対する意見を投稿できる箱を設置することも検討したいと思えます。</li> <li>・説明会については、父母の会で懇談できる機会があります。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報開示について、説明は丁寧に行い、一方的な意見ではなく、対話して理解を深めることが重要だと思います。</li> <li>・資料を置くことはよいのですが、文書だけでは理解し辛い部分もあることから、対話をして理解してもらおうほうがよいのではないのでしょうか。</li> </ul>
地問研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のことを考えるのも必要ですが、10年後、20年後のことを考えながら、合意形成を図ることも重要です。説明会等で議論する際は、そういった観点から議論すべきだと思います。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規模を議論する時、園の規模なのか、クラス1つの規模なのかで意味が違ってきます。保育士1人に対する園児の数とした時、保育の</li> </ul>

	<p>質に関わってきます。規模の設定を議論していただく際も何に対しての規模なのか、ポイントをしっかり見極めて議論していただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の自治体で小学校の統廃合を議論した時、児童数の関係からクラス替えができないとの意見があり、クラスの定員を少なくしてはどうかと提案したことがありました。しかし、このことは、先生がたくさん必要になるので高負担になります。高負担をしてでもやりたいのかということになります。</li> <li>・全体で規模を考える時、小規模園がよいということであれば、園の数が増えることになります。建物はまとまっているほうが効率的であるため、園が増えることは高負担につながります。その負担は私たちの子どもが子育て世代になった時に負担することになります。</li> <li>・老朽化した建物を立て直すということは一朝一夕にはできません。今、予算を組んでも、できるのは数年後ということになります。</li> <li>・建物と人件費は2大支出なので、これをコントロールしなければ持続不可能となります。お金がなくて何もできないという状況だけは絶対に避けなければいけません。</li> <li>・高負担にも関わらず、1クラスを国の基準より少なくしていることは、岩倉市の保育行政に対する意思表示だと感じました。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全といったことでは、私のところも建物自体 50 年が経っています。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回はこの案を確定させていくことになっていますが、事務局はどのようにお考えですか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムスケジュールでは次回が最後となります。各園への情報開示は早急にさせていただきます。</li> <li>・父母の会で説明させていただき、その際のご意見とそれまでにいただきましたご意見を併せ、ご意見を踏まえた形での最終的な案としてお示しできるようにしたいと考えております。</li> </ul>
<p><b>3. その他</b> 事務局より、懇談会及び次回の日程について調整 次回の懇話会は、8月2日 午後1時30分から開催することに決定。</p>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回岩倉市公立保育園適正化配置に係る懇話会を閉会させていただきます。</li> </ul>